

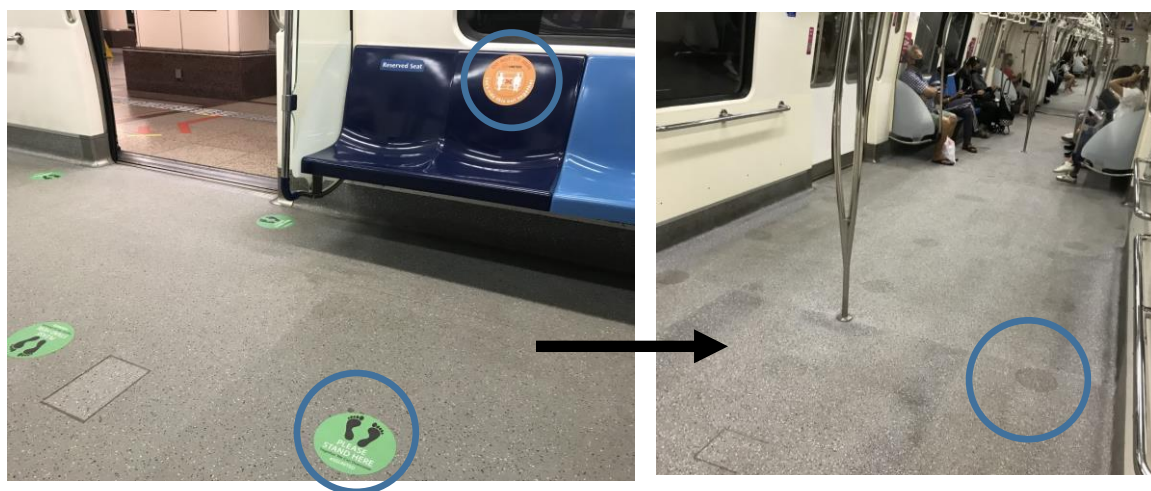
各国のコロナウイルスの各国の対応状況について

シンガポールのサーキットブレーカーの終了

シンガポールでは6月1日に、職場・学校等を閉鎖するサーキット・ブレーカー措置が終了し、6月2日以降、3段階に分けて経済・社会活動の制限が解除されることとなりました。6月2日から始まったフェーズ1では、企業活動は「ほぼ」再開されましたが、在宅勤務が継続できる場合は継続しなければならないという政府の指示が出ており、出勤する必要がある場合は2日前に業務内容を添えた申請書を提出する必要があるなど、実際のところ会社に出社して仕事をするというコロナ以前の日常には戻っていません。

もし、出社する際には、感染者が発生した時に、迅速に濃厚接触者を追跡するため、シンガポール政府が開発した訪問者登録システム（Safe Entry: QRコードを携帯電話でスキャンして、入退所者の個人番号情報と訪問場所を紐付けし、追跡用としてクラウドに記録するシステム）でチェックインする手続きや体温測定が、ビルの入館時及び事務所に入る際の2度必要となります。（もちろん帰る際は、Safe Entryでチェックアウトをする必要があります。）

また、6月2日以降の市中の様子としては、MRT（電車）やバス内の座席に貼られていた空席（座ってはいけない目印）ラベルや、立ち位置を示すラベルがなくなりました。



サーキットブレーカー中と終了後の電車内の様子

このほか、近くのショッピングセンターにおいては、外出する人が多くなったが、建物内に入ることができる人数が制限されているため、夕方になると入館を待つ買い物客で長い行列ができているのをよく見るかけるようになりました。

シンガポールでは6月13日に、新型コロナウイルス感染症の感染者数は4万人を超えましたが、新規感染者数は200~400人/日程度と、徐々に減少しています。



ショッピングセンターに入る人の行列

各国の海外渡航の状況

新型コロナウイルス感染拡大防止策として東南アジア各国は入国制限を設けており、新規の赴任や駐在員の再入国ができない状況が続いています。

シンガポール政府は3月下旬から、短期滞在目的の外国人の入国を原則として禁止しており、労働ビザを保有する外国人についても重要産業に従事する場合を除き、現在も入国を許可していません。

なお、6月8日からは中国の一部都市との渡航制限を緩和し、一定の条件を満たせばビジネスと公務での出入国が認められるようになりましたが、同様の措置の導入について交渉を進めていることが明らかになっているのは、現在、ニュージーランドとマレーシアの2カ国のみで、日本を含むその他の国・地域について、政府は先の会見で「複数の国・地域と交渉中」との発言にとどめ、詳細は公表されていません。

こうした中、ジェットロシンガポールとシンガポール日本商工会議所が行なったシンガポール日系企業向けアンケート結果によると、駐在員・帯同家族約 400 人がシンガポールへ入国できず、一部事業にも支障が出ているという結果が出ています。

外国人の入国が原則禁止となっているマレーシアについては、6月10日から8月末までの回復活動制限令中は国境閉鎖を続ける方針であり、それまで新型コロナウイルスの新規感染者数が1桁を維持できた場合、入国制限を緩和することとしています。

ただし、マレーシア入国管理局は、国外に滞在している新規着任予定者を含む駐在員及びその家族について、入国前3日以内のPCR検査 および陰性証明書の提出、到着後14日間の自宅隔離などの一定の要件を満たせば入国が認められることが発表されました。（入国時のガイドライン<<https://esd.imi.gov.my/portal/latest-news/announcement/myxpat-s-rmco-sop/>>）しかしながら、現状では、日本では発熱など新型コロナウイルスの感染が疑われる症状があり、かつ医師が必要と判断した場合でない限り、基本的にはPCR検査ができない状況であること、さらにマレーシアは渡航禁止勧告（レベル3）となっていることから、実際に駐在員等が入国できるようになるまでは時間を要するのではないかとの見方もあります。

また、ジェットクアラランプールとマレーシア日本人商工会議所が行なった調査では、マレーシアにおいても駐在員・帯同家族約 400 人が入国できず、渡航待ちとなっています。

非常事態宣言が6月末まで延期されたタイについては、外国人旅行者の受け入れについて、7月中に「ビジネス」と「患者」を優先に受け入れ開始を検討しており、入国後14日間の隔離を免除する代わりに、健康証明書の提出や新型コロナウイルス感染症に対応した医療保険への加入の義務、政府によるPCR検査の実施などの対応を検討しているとのことです。

シンガポールナショナルデイ・パレードの開催とF1シンガポール・グランプリの中止

今年の8月9日に開催が予定されているナショナルデイ（建国記念日）・パレードは、COVID-19のガイドラインに従って規模を縮小させ、人が多く集まるマリーナ地区

のような中心的な場所ではなく、自宅で祝うことができるよう、シンガポール島内の町に分散して開催し、オンラインで放送されることとなりました。開催には

「Together, A Stronger Singapore」というテーマが掲げられ、シンガポール国民が団結し、以前よりも強くなって課題から立ち上がるため（課題を乗り越えるため）に協力するという強い思いが込められています。

一方で、9月に開催予定であった、今年のF1 シンガポール・グランプリについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、サーキットコース予定地への立ち入りや建設についての規制が継続されており、会場準備が十分にできないことから正式に中止が決定されました。昨年は3日間で約27万人を集客し、また、9月は例年観光客が少ない時期の大きな観光収入源だったため、中止による損失を心配する報道も出ています。



昨年のナショナルデイ・パレードの様子 (The Straits Times)

新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ継続中ですが、皆様の健康を祈っております。また、お困りごと等ございましたら何なりとご連絡ください。